

■提出されたご意見及び回答

番号	頁	見出し等	ご意見 ※一部要約している場合があります。	町の考え方・対応 ※修正部分赤字	修正の有・無
1	その他		<p>必要以上にカタカナ語が使われていると感じる。ビジネス業界や行政担当者、学識者間では既に浸透している言葉かもしれないが、能勢町内の一般の人々が文章を読んでいるときに調べなくては意味が分からないようなコトバに関してはページ内に注釈を打つか、日本語で表記したほうが良いのではないか。下に、当計画案に出てきているカタカナ語で比較的新しい部類に入ると思われるものを抜粋した。これらの言葉について、調べずに意味を正確に把握している人がどれぐらいいるのか、カタカナ語でないと表現できないのか、検証してほしい。</p> <p>シビックプライド、ワーケーション、ソーシャルキャピタル、グリーンツーリズム、グリーンレジリエンス、バックアップ、アップデート、ローカルイノベーション、プラットフォーム、ステークホルダー、アントプレナーシップ、リデザイン、エネルギーマネジメント、グリーンインフラ、グリーン成長、アクター、ウェルビーイング、シティプロモーション、フレイル、リテラシー、ディバイド、オフセット、インフラストラクチャー、パンデミック、DX、ビッグデータ、ウェブアクセシビリティ</p>	<p>カタカナ表記の箇所について、それぞれ下記の内容に表現を改めるとともに、その他の語彙については必要に応じて用語説明のページを作成します。</p> <p>①シビックプライド【P5-1・2ほか】 →持続可能な社会の創り手としての意識</p> <p>②ワーケーション【P3左側、P5-33】 →「ふるさとや農山村地域などで余暇を楽しみながら仕事を行うワーケーションや」として前文に用語の説明を加えます。なお、【P5-33】についてはすでに同様の説明が記載されているため原案どおりとします。</p> <p>③ソーシャルキャピタル【P3-1・9】 →ソーシャルキャピタル（人間関係資本） ※説明併記</p> <p>④グリーンツーリズム【P13、P3-3ほか】 →農山村の自然や文化、人との交流</p> <p>⑤グリーンレジリエンス【P3-4・11ほか】 →自然資本を賢く生かす</p> <p>⑥バックアップ【P3-4、P5-46】 →支援</p> <p>⑦アップデート【P3-6】 →縁をつなぐ</p>	有

1			”	<p>⑧ローカルイノベーション【P3-6】 ➡地域発のサービスやユニークな取り組み</p> <p>⑨プラットフォーム【P3-7、P5-31ほか】 ➡「場」、または「基盤」</p> <p>⑩ステークホルダー【P3-8、P5-6ほか】 ➡関係者・協力者【P1-2】は説明を併記していることから原案どおりとします。</p> <p>⑪アントレプレナーシップ【P3-8、P5-2】 ➡自ら行動し新しい価値を生み出していこうとする挑戦心</p> <p>⑫リデザイン【P3-10、第5章ほか】 ➡活性化</p> <p>⑬エネルギーマネジメント【P3-3・11】 ➡エネルギーを大量に消費するのではなく適切な量を無駄なく使う仕組みづくり</p> <p>⑭グリーンインフラ【P3-11】 ➡グリーンインフラ(自然環境が有する多面的機能を防災・減災などに生かしていく力) ※説明併記</p> <p>⑮グリーン成長【P3-11、P5-34】 ➡再生可能エネルギーへの転換をまちの活力に生かす</p>	有
---	--	--	---	---	---

1	その他		〃	<p>⑩アクター【P3-12】 →主体</p> <p>⑪ウェルビーイング【P3-9、第5章ほか】 →「健康で幸せな暮らし（ウェルビーイング）」として日本語併記していることから原案どおりとします。</p> <p>⑫シティプロモーション【P5-29】 →『シティプロモーションとは「地域の魅力を内外に発信し、その地域へヒト・モノ・カネを呼び込み、地域経済を活性化させる活動」です。』として本文中に説明があることから原案どおりとします。</p> <p>⑬フレイル【P5、P5-22】 →フレイル（健康な状態と要介護状態の中間の段階） ※説明併記</p> <p>⑭リテラシー【P5-24、P5-48】 →知識や教養</p> <p>⑮デジタル・ディバイド【P5-24、P5-47】 →インターネットやコンピューターを使える人と使えない人との間に生じる格差</p>	有
---	-----	--	---	--	---

1	その他	〃		<p>②オフセット【P5-44】 ➡カーボン・オフセット（自らの温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を他の場所での排出削減・吸収量で埋め合わせすること） ※説明併記</p> <p>③インフラストラクチャー【P5-45】 ➡「災害に対するインフラストラクチャーの構築（道路や河川、山林などの土木事業）」と日本語を併記していることから原案どおりとします。</p> <p>④パンデミック【P5-46】 ➡感染症の世界的な流行</p> <p>⑤DX【P5-47・48】 ➡デジタル技術の活用。ただし、「自治体 DX 推進手順書」は個別の名称のため原案どおりとし、別ページに注釈を追加します。</p> <p>⑥ビッグデータ ➡【P5-47】様々なデータ、【P5-48】「AIによる様々なデータの収集・分析」</p> <p>⑦ウェブアクセシビリティ【P5-48】 ➡ホームページで提供されている情報や機能に支障なくアクセスし、利用できる環境</p>	有
---	-----	---	--	--	---

2	P3	サブタイトル	<p>サブタイトルが分かりにくい。</p> <p>「町の生活が子どもの人間形成の原点」 本文よりピックアップしているようだが、それならば最初の行の「町の豊かな自然環境や顔の見えるコミュニティは子育ての魅力」の方がサブタイトルにふさわしいのでは？</p> <p>【提案】「魅力ある子育て環境、豊かな自然とコミュニティ」</p> <p>「高まる町での生活へのニーズ」 能勢町での生活が求められ、移住者が増えていますということなのか？</p> <p>【提案】「町での新しい暮らし方」「求められる能勢町での新しい暮らし」「町に移り住む人々」</p> <p>「受け皿づくりを丁寧に」 「丁寧に」することは重要だが、目的は「地域で受け入れる体制を構築すること」なのでは？「丁寧に」が太字でサブタイトルなのは違和感がある。</p> <p>【提案】「地域で取り組む受け皿づくり」</p>	<p>ご意見のとおり修正します。</p> <p>町の生活が子どもの人間形成の原点 ➡魅力ある子育て環境、豊かな自然とコミュニティ</p> <p>高まる町での生活へのニーズ ➡町での新しい暮らし方</p> <p>受け皿づくりを丁寧に ➡地域で取り組む受け皿づくり</p>	有
3	P3・P7		<p>昨今の移住者や、新たに農業に取り組む人は本格的な専業・兼業農家以外に半農半Xのように、仕事のベースを別にもちつつ、「業」ではない自給農を求めている人が多い。既にそのような暮らしをしている町民も多く、今後増えていくと考えられる。「農ある暮らし」という意味の文言を加え、町として推進するという内容を加えられないか？（「副業」「多様な担い手」という言葉とはまた違う意味合い）</p>	<p>ご意見を踏まえ、P3に下記内容を追加します。</p> <p>受け皿づくりを丁寧に 大切なふるさとを【中略】施策がますます重要になっていきます。地域企業への就業や起業、子育て、農のある暮らしなどを希望する方の移住の実現に向けて、今後、更に増加が懸念される空き家等の未利用資源を有効活用していくことも大切です。</p>	有

4	P3右列	サブタイトル：受け皿づくりを丁寧に	(原案) 子育てや地方の暮らしの魅力を発信するとともに、地域の皆さんとともに「地域のありたい姿」を共に考え、移住や町と深い関りを持ちたい方への受け皿づくりを丁寧に進めていく必要があります。 「子育てや地方の暮らしの魅力」町民に向けてなので「地方の暮らし」より「田舎暮らし」の方が適切では？	ご意見を踏まえ下記のとおり修正します。 子育てや農山村の暮らしの魅力	有
5	P9	タイトル	「多様な働く場所がある町」：日本語として違和感がある 【提案】働く場所が多様にある町	ご意見のとおり修正します。 働く場所が多様にある町	有
6	P9	サブタイトル	働き場所への内外からのニーズ：日本語として違和感がある。 【提案】「町内外から求められる働く場所」「町内外からの働く場所へのニーズ」	ご意見のとおり修正します。 町内外から求められる働く場所	有
7	P9	2行目、12行目	「働き場所」：誤植？故意であったとしても誤植と思われる表現である。	ご意見を踏まえ、文言を修正します。 働き場所⇒就労の場	有
8	P11左側	サブタイトル：公共交通を取り巻く厳しい環境	「送迎など」「ニーズなど」「縮小など」：「など」が多い。どれか省けないか。	ご意見を踏まえ、記載内容を下記のとおり修正します。 町外に通学する高校生も、下校が遅いとバスの最終便に間に合わず、土曜日や日曜日の通学にも送迎(削除)が必要になっています。また、若者世代だけではなく、高齢者等の外出支援に対するニーズ(削除)も高まっています。しかし、運転手不足や需要の縮小などにより地域における公共交通を取り巻く環境は、更に厳しくなっています。	有

9	P13	全体	<p>バイオマスに関して記述がない。森林資源を活用するにあたって視野に入れておくべきことではないか。それとも、検討から既に外れたのか。</p>	<p>P3-3（2-1経済）に下記のとおり加筆します。なお、「20森林資源の保全と活用」（P5-42）においても、森林資源のエネルギー利用について可能性を検討する旨を示しています。</p> <p>（加筆箇所） エネルギー・資金・経済・情報が循環するまち 木質バイオマスなどの地域内の再生可能エネルギー資源が最大限活用されるとともに、エネルギーを大量に消費するのではなく適切な量を無駄なく使うまちづくりが実現しています。</p>	有
10	P3-1	将来目標	<p>（原案）本計画では、人口を増やすこと以上に、地域内外の「縁」を創造し、増やしていくことで、つながりや支えあいthat広がり、温かで賑わいがある開かれたまちを目指します。</p> <p>人口を増やすことは簡単ではないが、人口維持もしくは人口減少を少しでも食い止めることへの取り組みは必要であるので、ここで「以上に」と優先順位をつけるべきではないのでは。</p> <p>【提案】「人口を増やすこととともに」のような表現にする、もしくはこの文言を省く。</p>	<p>ご意見を踏まえ、記載内容を下記のとおり修正します。</p> <p>本計画では、（削除）地域内外の「縁」を創造し、増やしていくことで、つながりや支えあいthat広がり、温かで賑わいがある開かれたまちを目指します。</p>	有

11	P3-2	里山について	<p>「里山」は、エネルギー革命以前の地産地消を賄っていた時代の田畑や民家を含む里地やそれに続く山野・水辺環境であり、その何百年とかけて築き上げられた人工的な自然環境には日本独特の生態系が確立されていた。グローバル化によるエネルギー転換で利用されない家畜や薪炭林、外来生物の出現や在来種の絶滅により本来の生態系が崩れてきた。そのように人間の営みの変化により現在では、狭義の意味での里山は現在の日本には存在しない。人間活動が地球環境の悪化を招いているのと同じく、現在の里山的環境も悪化の一途を辿っていつていっていることを決して忘れてはならない。ここでの「里山」は里山的環境であり、農村的文化などを含む広義の意味での里山である。ノスタルジックな観光的・自然回帰的要素もある。</p>	<p>同ページに里山の概念について説明しておりますので原案とおりとします。</p> <p>(原案抜粋) 『農村的な文脈をもちつつ、地域環境的な概念として「里山」が広くつかわれるようになりました』</p>	無
12	P4-4	SDG s との対応	<p>施策の大綱にSDG s の17項目を当てはめる施策が必要なのは？</p> <p>ゼロカーボンタウンを目指している本町に「13気候変動に具体的な対策を」の項目に●が少なすぎる。気候危機は行き過ぎた資本主義や経済発展がもたらした結果であり、災害や環境汚染など生命に関わる重要な項目である。特にすべての施策の中で実行に移していかなければならないはずだ。</p>	<p>分野別計画において具体的な取組を掲げており、関連諸施策と連携を図りながらゼロカーボンタウンの実現に向けて高いレベルで挑戦することとしています。</p> <p>なお、国土の大半を支える農山村地域は人間生活に欠かすことのできない多面的な機能を有しています。農山村地域が持続していくことは、SDGs目標のすべてに貢献するものであると考えています。</p> <p>そのうえで、本ページではSDGsのゴール達成に直接的につながる施策を示しており、対応する施策テーマの多寡により、施策実行の有無を判断するものではございませんので、原案どおりとします。</p>	無
13	P4-4	SDG s との対応	<p>「14海の豊かさを守ろう」にはチェックがないが、私たちのゴミは、燃やされ大阪湾に埋め立てられている。生活排水や下水も河川を通して海に流れていく。生活と繋がっているはずだ。</p>	<p>N012のとおり、本ページではSDGsのゴール達成に直接的につながる施策を示していますので、原案どおりとします。</p>	無

14	P4-4	SDG s との対応	<p>「健康で幸せな暮らし」の中に「生活インフラの充実」がないのはなぜか？ 安定した上下水道・排水・電気・電波・電話・ゴミ収集などは当たり前のようにあるが、これが止まってしまえば、健康で衛生的な生活自体がなりたたない。インフラを健全に維持していくための問題も多々あるはずだ。</p>	<p>N012のとおり、本ページではSDGsのゴール達成に直接的につながる施策を示しています。 なお、上下水道等に関する内容は、施策テーマ「20時代に合った地域の魅力を引き出す土地利用」の項目に掲げており、当該施策の直接的なゴールとしては「6安全な水とトイレを世界中に」、「11住み続けられるまちづくりを」を目標に設定しています。</p>	無
15	P5-1～P5-4	施策の方向性	<p>ここでの「教育」とは、6歳から18歳まで教育だけなのですか？幼児教育・社会教育・生涯教育が含まれないのか。 6歳未満は、情緒や感性など人間として基礎を築く大切な時期です。幼児教育についてもしっかりと明言してもらいたい。 ノーベル経済学を受賞したジェームズ・ヘックマン米シカゴ大学経済学部特別教授は、5歳までの教育が、人の一生を左右すると明言している。幼年期に培った潜在能力は、人生の様々な局面で自ら行動を起こしていく時に必要な様々な能力をされると言われている。この人間形成の大切な時期を「教育」の中で外してはならないのではないか。 社会教育・生涯教育も人口割合からしてもとても大切なものではないか？ 大人になったら、学習することが無くなるわけではありませぬ。実際、里山義塾や人権教育講演会、文化財も図書館もあります。スマホ教室など新たな学習もこれからは大人に必要な。身近な生活の中でも「知識」として知ってもらいたい事もある。SDG s やエネルギー政策など町を挙げて取り組もうとしている事に、もっと興味を持ってもらえるような環境を作らないといけないはずだ。これは教育以前の知識の問題かもしれないが、町に興味を持ってもらうことを促進する働きかけが必要かと思う。 「教育」とは、学びたいという気持ちが基本だが、その気持ちを起こさせるきっかけや、その場を提供する事が町の役割ではないのか。</p>	<p>義務教育学校に関する内容が中心になります。 社会教育・生涯教育については、施策テーマ「7社会全体で子ども・若者の成長を支える環境づくり」及び「12生涯活躍できる社会の実現」に示しています。 なお、幼児教育に関する記述については、下記の内容を追加します。 (修正箇所P5-2) 高校を含めた一貫教育における体系的な教育プログラムの推進 ・認定こども園・保育所・義務教育学校の連携を図り、子どもたちの学びの連続性を確保するとともに、関係機関と協力のもと質の高い幼児教育・保育の提供体制の充実に努めます。</p>	有

16	P5-5・6	全体	ここでも、子どもや若者が主語になっているが、それを支える大人への発信が弱いのではないかと？ 今現在、里山留学制度の協力者が少ないのもその表れではないか。「サイクル」という言葉のように、循環させていくためには、相互理解が必要だ。	同ページにある「他施策との主な連携」において「7. 社会全体で子ども・若者の成長を支える環境づくり」を掲げており、関連施策と連携を図りながら施策を推進する予定です。ご意見については施策推進の参考にさせていただきます。	無
17	P5-7	現状と将来予測から見た課題	大阪市街へ1時間程度で行けるため、週末だけ移住のような選択肢を選べたり、市内での仕事を手放さずに田舎暮らしができる点が、他の地方市町村と差別化できる本町の強みである。その点を加筆できないか。	ご意見を踏まえ、下記のとおり修正します。 現状と将来予測から見た課題 ■移住に関する情報発信や<中略>発信が不足しています。一方で、本町は、都市近郊に立地しており大阪や京都市内へ自家用車で約1時間の距離にあります。二地域居住として本町に都市の住居に加えた生活拠点を持ったり、市内での仕事を手放さずに農山村の暮らしを実現したりすることができます。こうした町の強みを適切に発信していくことが重要です。	有
18	P5-11	現状と将来予測から見た課題	町内の道幅は狭いことが多く、思いっきり走り回れる広場もない。予測不可能な行動をとるかもしれない。子どもや障がい者が安心して行動でき、憩いの場所となる様な場所がない。	5-12ページに施策の方向性として「子供たちの豊かな遊び・学びの実現」を掲げていますので、原案どおりとします。	無
19	P5-12	施策の方向性	今後、ささゆり学園校庭や旧小中学校の校庭、名月グランドの開放など設けていく事も視野に入れてはどうか。	ご意見の内容について、現時点では想定しておりませんが、今後の施策推進の参考にさせていただきます。	無
20	P5-21	現状と将来予測から見た課題	いきいき百歳体操への男性の参加が少ない。(統計を取ったわけではないが、聞いた地区では男性がほとんどいない。)	ご意見を踏まえ、原案を下記のとおり修正します。 性別を問わず参加いただけるよう施策の推進に努めます。 【現状と将来予測から見た課題】 ■健康長寿には(中略)、参加者数は約500人で、高齢者人口の約13%(全国目標:8%)と高い水準になっています。引き続き、参加者の裾野拡大に向けた対策が求められています。また大阪大学との<以降略>	有
21	P5-25	現状と将来予測から見た課題	外国人住民の増加が予測される。民生委員などを通じて識字教室の積極的な活用を促すべき。	施策の方向性として「人権が守られる環境づくり」を掲げていますので、ご意見については今後の施策推進の参考にさせていただきます。	無

22	P5-25	現状と将来予測から見た課題	多様な背景を持った人の中に「過敏症疾患患者」も入れてほしい。「多様な背景を持った人の人権」を「多様な背景を持った個人の人権」に修正すべき。	原案には「多様な背景を持った全ての人」と記載していますので原案どおりとします。なお、表現については、「多様な背景を持った個人の人権」に改めます。	有
23	P5-25	現状と将来予測から見た課題	労使関係・出生などの社会的人間関係のバリアフリーもどこかに、入れてほしい。	施策の方向性として「人権が守られる環境づくり」を掲げていますので、ご意見については今後の施策推進の参考にさせていただきます。	無
24	P5-26	人権が守られる環境づくり	個人情報の保護に対する項目も入れるべき。	施策の方向性として「人権が守られる環境づくり」を掲げていますので、原案どおりとします。	無
25	P5-29	施策が目指す姿	「能勢の魅力が広まり、全国に能勢のファンがたくさんいる」を「能勢の魅力が広まり、全国に能勢のファンが増え、関係人口が増加する」に修正すべき。	本計画では関係人口を「能勢ファン」として捉えます。ご意見を踏まえ、下記のとおり修正します。 能勢の魅力が広まり、全国に能勢のファンがたくさんいる →能勢の魅力が広まり、全国に能勢のファンが増え、地域とのつながりが増加する	有
26	P5-31	現状と将来予測から見た課題	担い手の働きやすさや効率化、生産性向上が主目的になり、生態系の攪乱や自然破壊、景観損失にならないようにしなければいけない。	ご意見については、今後の施策推進の参考にさせていただきます。	無
27	P5-33	現状と将来予測から見た課題	「里山」はエネルギー革命以前の地産地消を賄っていた時代の田畑や民家を含む里地やそれに続く山野・水辺環境であり、その人工的な自然環境には日本独特の生態系が確立されていた。方や、産業農業や農地の企業用地転用はその「里山」を破壊するものである。「魅力ある里山資源を次世代につなげていく」のに、「農業の産業化・土地利用の高度化」は相反するのではないか？	里山や農山村資源を担う人材をつなぎ、そこで暮らし続けることができる環境整備に向けて、就業機会の拡大を図ることが必要です。そのため、「里山資源の保全」と「多様な就労機会の確保」については相反する取組ではなく、相乗効果を生み出すべく施策の推進を図ることが重要であると考えておりますので、原案どおりとします。	無

28	P5-33	現状と将来予測から見た課題	<p>単に「就労の場」と書いてあるが、就労の内容はどんなものなのか。第一次産業・第二次産業・第三次産業、社会にとって必要不可欠な職種から一部の人だけの需要を満たすものもある。近年郊外で建設が進んでいる物流センターは、町から車で最短15分の場所にあり現在も人を募集している。もっと大きな物流センターも数年後には出来る予定である。町内の物流センターでも人手不足である。大切な能勢町の魅力である自然を潰してまでも必要な就労とはなになのか？もっと調査議論を尽くすべきである。</p> <p>この章では地域経済の章である。「魅力ある里山資源を次世代につなげていくためには、」よりも「税収を上げ健全な町政を次世代につなげていくには、」ではないのか。</p>	<p>就業機会の確保に向けては農業以外の選択肢も重要であると考えています（P5-39,40参照）。</p> <p>なお、本ページに記載していますが、農家へのアンケート調査においては、76%の方が農業系以外の企業誘致が必要と回答されています。</p> <p>本町の土地利用については、町域の約36%が農業振興地域であり、約99%は市街化調整区域です。人口減少や農家の高齢化等が進む中で、持続可能で地域活力を支える土地利用のあり方を考えていくことが必要であると認識しています。</p> <p>引き続き、環境・経済・社会の統合的向上を目指して、地域の魅力を引き出す秩序ある土地利用を推進します。</p>	無
29	P5-34	魅力ある就労環境の創出	<p>(原案)</p> <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革が促進され、働く人の個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できるよう、地方創生に資するテレワークなどの環境の整備に努めます。 「住む」だけではなく「働く」という視点での豊かな自然の中での里山オフィスのプログラムの検討を行い、アフターコロナの時代における多様な働き方に対応する「働く場づくり」を行います。 <p>具体的にどうということかこの文面では分からない。前者は能勢町としてテレワークできる仕事を創出するということか、役場の仕事をテレワークにするという意味か。後者は里山オフィスを構える企業を誘致するということか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、下記のとおり修正します。</p> <p>・農山村の魅力や都市近郊の強みを生かして、地方創生に資するテレワークの推進を図るなど多様な働き方に対応する「働く場づくり」を行います。</p>	有
30	P6-2	重点化目標	<p>重点目標の1・2を見て、がっかりした。結局人口問題？町のポリシーが感じられない。町の魅力が感じられない。町の特徴が感じられない。タイトルにある「人・地域・地球の健康を守り 縁をつなぐ 開かれたまち能勢」はどこに？人口を増やすことが大きな目標ならば、もっと特化した基本計画やタイトルでも良かったのでは？</p>	<p>地方創生は、出生率の低下によって引き起こされる人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的としています。この地方創生の趣旨に基づき目標設定を行っていると考えています。</p> <p>なお、基本構想を踏まえ、重点目標の達成に向けて横断的に取り組むべき内容を追記します。</p> <p>※別紙1、別紙2のとおり</p>	有